

平成24年度
美深町行政評価報告書
(平成23年度施策)

平成24年度行政評価（平成23年度施策）について、次のとおり報告する。

平成24年 9 月10日

美深町行政評価町民委員会 委員長 山 崎 晴 一

美深町行政評価委員会 委員長 今 泉 和 司

1 評価の対象

第5次美深町総合計画に基づいた31の施策を評価した。

2 評価の方法

263の事務事業からなる102の主要施策について、行政評価委員会から提出された評価調書及び補足説明によって、3部会において担当する施策を4段階で評価した。

※1 行政評価町民委員会 委員長 山崎晴一、副委員長 平田耕二
(◎は部会長 ○は副部会長)

福祉・教育部会 ◎藤原正岳、○荒川賢一、松田征男、菅原淳子、茶谷つぐ美
産業・経済部会 ◎水本守、○平田耕二、谷口栄二、佐藤厚、雪田明美
環境・行財政部会 ◎齊藤宏行、○佐藤智三、山田洋子、山崎晴一、山下隆二

※2 行政評価委員会（行政内部） 委員長 今泉和司、副委員長 渡邊英行
(◎は部会長 ○は副部会長)

福祉・教育部会 ◎瓜田晃、○吉田克彦、清水目桂子
産業・経済部会 ◎木戸一博、○長岐和彦
環境・行財政部会 ◎渡邊英行、○宇野博幸、長谷川浩

※3 三部会の評価施策数

福祉・教育部会	12施策	〔41主要施策（123事務事業）〕
産業・経済部会	6施策	〔17主要施策（54事務事業）〕
環境・行財政部会	13施策	〔44主要施策（86事務事業）〕

※4 四段階評価

A評価	取り組んでいる	B評価	概ね取り組んでいる
C評価	一層の取り組みが必要	D評価	取り組みが見られない

3 評価の経過

美深町行政評価の実施に関する取扱要綱に基づいて、平成24年7月20日に第1回行政評価委員会を開催以降、7月31日には第1回の行政評価町民委員会を開催し、下記のとおり行政評価を実施した。

- ・ 5月11日 1次(事務事業)評価調書作成
- ・ 6月8日 2次(主要施策)評価調書作成
- ・ 7月20日 第1回行政評価委員会
- ・ 7月31日 第1回行政評価町民委員会(委嘱状交付)

第1回各部会開催（3部会～2次評価結果確認作業）

- ・ 8月 9日 第2回福祉・教育部会（合同会議）
- ・ 8月 9日 第2回産業・経済部会（合同会議）
- ・ 8月21日 第2回環境・行財政部会（合同会議）
- ・ 8月27日 第3回福祉・教育部会（合同会議）
- ・ 8月27日 第3回産業・経済部会（合同会議）
- ・ 9月10日 第2回行政評価町民委員会

第4回(第3回)各部会開催（3部会評価結果確認）

4 評価の結果

31施策のうちA評価は22施策（71.0%）、B評価は8施策（25.8%）、C評価は1施策（3.2%）となり、D評価はなかった。

このようなことから、第5次美深町総合計画に基づく施策のほとんどは、取り組みがなされている若しくは概ね取り組まれているものと評価できる。

主要政策ごとに区分した施策の評価結果の概要については、以下のとおり。

○ 自然環境と調和する安全・安心なまち「美深」

環境保全・環境衛生の推進では、自然環境保全の面で、二酸化炭素等の温室効果ガス排出抑制に向け、公共施設を中心とした省エネ対策から取り組む必要がある。また、環境衛生の面では、上下水道事業の整備、ごみ処理体制の充実など特に大きな問題はなく、全体を通し概ね評価できる。

道路・交通網等の整備では、道路整備は計画的に行われているとともに、除雪事業も総体的に良いと評価できる。また、仁宇布線デマンドバスがこれまでの実証事業の結果を踏まえ平成24年度から本格運行されることから、公共交通の充実面において評価できる。今後は市街地交通のあり方の検討が必要となる。

住宅の整備では、公営住宅を含む町全体の住宅需要は多く、美深町住生活基本計画に基づく施策の推進と、民間活力による住宅確保の方向性は評価できる。また、本町への移住促進を目的としたちょっと暮らし移住体験について、今後の取り組みに期待したい。

計画的な土地利用では、無秩序な土地利用は見られず、空き家等による環境及び景観面で、市街地にある劣悪状態の空き家2棟を解体したことは大きな成果である。

また、公園・緑地の整備では、都市公園や農村公園を指定管理者により適正に管理されていると評価できる。

消防・防災体制の充実では、救急体制の充実面で、一人暮らしの高齢者宅に緊急通報装置の更新を行い、安全安心の確保が図られている。

防災体制の確立では、東日本大震災を受け国・道の防災計画の見直しが行われ、本町においても23年度から見直し作業が進められている。また、防災体制の強化では、自治会にある自主防災組織の機能強化が課題となっている。

交通安全・防犯対策の推進では、協議会等による啓発活動が積極的に行われている。また、街灯の整備及び地域における維持管理の充実を図り、犯罪のない安全安心なまち

づくりに取り組んでおり、一定の評価ができる。

情報化の推進では、全町への高速情報通信網（光ファイバー）の整備により、難視聴地域の解消、防災端末機による情報発信、ブロードバンド通信事業に活用され、多様な情報提供の充実が図られている。

消費生活対策の推進では、消費者協会と連携しながら、消費生活に関する情報の提供や注意喚起などの啓発活動に取り組んでいると評価できる。また、消費生活相談の体制強化では、定住自立圏域で専門相談員を配置するよう検討されている。

以上のとおり、「自然環境と調和する安全・安心なまち「美深」」における施策評価は、A評価が7施策、B評価は1施策であり、全8施策についてはほぼ取り組まれていると評価する。

○ 資源をいかす活力に満ちたまち「美深」

本町の基幹産業である農業の振興は、きめ細かく施策が実施されており、今後もより成果が上がることを期待している。特に畑作については、農作業の省力化を図るべく、麦の播種機、馬鈴薯のハーベスターが導入され、一定の取り組みの成果が見られることから、今後も工夫して事業が継続、展開されることを期待する。

さらに、農・商連携による「異業種交流会」が新たに開催されており後継者対策にも期待をしており、評価するものである。

農業とあわせて、林業の振興も本町の基幹産業であるが、森林資源の保全と育成は十分取り組まれており、引き続き計画的な保全・整備を望むものである。

今後は、木材の需要拡大と流通・加工対策など、林業経営の安定化に向けた積極的な施策を講じるよう要望する。

しかし、林業の冬期間の仕事など、通年雇用が課題である。

商業の振興においては、商工会に対する支援は特に充実していると高く評価する。

今年度は、「お財布あったかセール」が取り組まれ、事業内容の拡大によって活用が拡大している。

今後は、美深道路の完成後の商店街活性化づくり・消費及び交流人口問題について、対策を検討する必要がある。

工業の振興は、「快適住まいづくり事業」によって、建設業の振興に効果があったと評価できる。

さらに企業の新規参入の支援策や町内事業者の改修などにも助成内容が拡充されるなどの改正が見られ、効果的な対策が期待できる。

また、中小企業の資金融通に係る保証料の補給についても経営安定の面から重要であり、一定の評価ができる。

観光の振興は、プロジェクト事業の実施や砂川パーキングエリアでの観光案内板の設置など、積極的な事業展開がされており、本町の地域資源を活用した体験型観光が充実してきている。

今後は、滞在型観光に発展するよう、さらなる努力を期待するものであるが、一方で、情報発信・PRの部分について、関係機関と連携し、創意工夫した対策を要望する。

新たな地場産業の創出は、新たな特産品が開発されてきており、少しずつではあるが、活性化が図られてきている。一定の施策が講じられており、すぐ成果が出るわけではないので、今後の展開に期待をする。

就労対策・勤労者福祉の充実においては、求職者就業訓練事業を単費で実施するなど、一定の施策が講じられている。

また、退職金共済制度や勤労者福祉資金は大切な制度であり、今後も利用促進に向けPR等の検討を行う必要がある。

以上のおり、「資源をいかす活力に満ちたまち「美深」」における施策は、A評価が4施策、B評価が2施策であり、全6施策はほぼ取り組まれていると評価する。

○ 次代を創る人を育てるまち「美深」

幼児教育の充実では、全国に先駆けた幼児センターの取り組みで、就園率も高く、住民ニーズにもこたえており評価できる。

働く母親の声を聞いても一定の評価をされており、他市町村と比べ、子育てしやすい環境が整っていると実感できる。

学校教育の充実では、山村留学は、保護者、子ども共に良い評価の声が聞こえてくる。

学校教育においても、のびのびと育つ姿が見られ、学校が健全であると確認できる。

高等学校教育も資格取得など良く取り組まれているが、今後は就職に強い特徴ある教育に期待する。

家庭・地域教育の充実は、子ども教室や児童クラブなど、良く取り組まれているが、郊外の子供の利用が難しい状況にあり新しい支援方策に期待する。

家庭教育推進事業は、普段家庭で取り組みにくい内容を取り上げて開催するなど、保護者や児童のニーズを捉えた事業展開を望む。

社会教育の充実は、各種事業は、良く取り組まれていると評価する。

町民文化祭事業や公民館講座などは、内容に新鮮さが見られないので、魅力ある事業の充実に向け取り組んでほしい。

社会教育指導体制に関する人材育成については、具体的な将来像が見えない状況であるが、今後は次世代リーダーの育成に向け事業推進を期待する。

芸術・文化活動の推進は、文化会館は、多くの団体等に活用されており、一定の評価をすところであるが、固定化も見られまだ十分活用しきれていないといえない。なかなか足を運ぶ機会がないのが実態であり、子供も含めて利用できる機会が充実すると良い。

自主事業は多様な文化芸術の鑑賞機会となっているが、集客の少ないものが続けて開催されるなど新鮮さに欠けるものもある。町外からの集客が期待できるような内容を検討するとともに、講演会など多彩なメニューに取り組まれない。また、小さな子供でも良い芸術に触れられる機会が望まれる。

郷土資料室は観に行くに興味を引かれるものも多いが、何度も足を運ぶような内容には成りえていないため、展示物の入れ替えなど、計画的に取り組まれない。

スポーツ活動の推進は、エアリアルは競技者の育成が進みつつあり、将来の成果に期

待するところであるが、現状では層の薄さも否めない。冬期スポーツにじっくり取り組める環境を充実し、体験できる場所や機会の創出が求められる。

エアリアルやパークゴルフが積極的に取り組まれる一方で、他の競技に関しては競技人口減少や指導者不足などが懸念される。町民一人ひとりの体力向上のためには、運動会やミニバレーなど、身近なスポーツの充実も継続して取り組む必要がある。

また、体育施設の改修等も進んでいるが、老朽化した施設も残っている。計画的な改修によって利用者増に期待したい。

以上のとおり、「次代を創る人を育てるまち「美深」」における施策評価は、A評価が2施策、B評価は4施策であり、全6施策を通しては取り組まれていると評価する。

○ 健康で明るく暮らせるまち「美深」

健康づくり・医療の充実は、保健センターを活用して、検診事業など充実して取り組まれている。

保健指導によって健康改善につながっており、評価できる。

厚生病院等の医師の確保は住民としても関心が高い部分であるので、今後も積極的な働きかけと支援を行ってほしい。

子育て支援の充実は良く取り組まれている。不妊治療などはデリケートな問題ではあるが、充実して取り組まれない。

高齢者支援の充実は、高齢者に対しては支援が充実し、良く取り組まれており、今後も継続されたい。

障がい者支援の充実は、障がい者支援は充実して取り組まれており、支援も行き届いている。地域の中でいきいきと生活し、交流も盛んであり評価できる。

地域福祉の充実は、町民には見えづらい部分であるが、民生委員、社会福祉協議会ともに努力しており、事業も妥当であると評価する。

社会保障の充実は、国の制度によるところが多いが、すべて前向きに取り組まれていると評価する。

以上のとおり、「健康で明るく暮らせるまち「美深」」における施策評価は、A評価が5施策、B評価は1施策、全6施策を通しては、取り組まれていると評価する。

○ みんなでつくる心かようまち「美深」

住民主体のまちづくりの推進では、若手リーダーの育成事業として、民間と町職員による研修に取り組んでおり、美深町の担い手づくりに向けた意識高揚が図られている。

広報活動では、広報等での情報提供が主なものとなっており、住民の生の声を拾い上げる広聴活動の充実が求められている。

コミュニティ活動の充実では、行政の支援により自治会活動の推進が図られていると評価できるが、農村部の戸数の減少、役員の成り手不足、地域の連帯感の希薄化などの課題も抱えている。一方、地域集会施設については、老朽化の修繕などに随時対応していることや懸案であった第2コミセンの建設も始まり、全体的に取り組んでいると評価

できる。

男女共同参画の推進では、行政の各種委員の女性参画は進んでいると評価できるが、男女共同参画社会の促進では、町民意識の高揚を図るための啓発活動の充実に向け、一層の取り組みが必要である。

交流活動の推進では、姉妹町の添田町との相互訪問や富士重工がある太田市との交流により、人的なネットワークづくりと特産品の情報発信などで一定の評価ができる。

国際交流では、アシュクラフトとの交流20周年に向けた記念事業の計画ほか、ふるさと会の活動では、本町出身者などによる全国的な「(仮称)びふか人ネットワーク」づくりに取り組み、交流による一層のまちづくりが必要である。

行政経営の充実では、戸籍システム導入と住民基本台帳改修が行われ、住民サービスの向上が図られると評価できる。

健全な財政基盤の確保では、上川広域滞納整理機構に24年度から加入することにより、税負担の公平性が図られることに期待ができる。

以上のとおり、「みんなでつくる心かようまち「美深」」における施策評価は、A評価が4施策、C評価は1施策、全5施策については概ね取り組まれていると評価する。

以上、平成24年度行政評価報告とする。

美深町行政評価報告書

付属資料

